

〔空華日工集〕貞治五年七夕無外大照五六人來遊勝句句未央聽賣瓜聲乃命侍衣令買之少頃出謂瓜太半熟損不能取之勿吃客去侍衣曰初取茗以沽具亦無質可買瓜是以謂之熟損余咲曰真个薄福住山矣

〔翰林葫蘆集〕聞昔內園春進瓜華清風雨野人家温湯一掬山河潰萬里橋西二月花 二月進瓜

〔太閤記十五〕秀吉公異形の御出立にて御遊興之事

文祿三年六月廿八日之事なるに瓜畑などひろく作りなしたる所におゐて瓜屋旅籠屋をいかにも籠相にいどなみ瓜あき人のまねをなされつ各をも慰め又御心をも慰み給ひつ長陣の勞を補ひ給ひしなり御出立は柿帷をめされわらのこしみの黒き頭巾菅笠を御肩に物し味よしの瓜めされ候へくと有しは聊商人に違ふ所もなふてつきしく有しなり○中略
一丹波中納言秀勝は漬物瓜をになふてかりもりの瓜瓜めせくとふつかにのしり給ひしがぶてうほうに有しなりげにも若きは何事も無功に有よなど思はれて年はよるべき物なりいやよるまじき物でも有と云人も多かりしなり

南瓜
名稱

〔和爾雅七菜蔬〕南瓜ボウズ

〔鹽尻七十一〕南瓜は回紇の瓜也同じ物に亦かぼちやといふあり

〔物類稱呼三生植〕南瓜ぼうふら 西國にてぼうふら備前にてさつまゆふがほ津國にてなんきん

東上總にてとうぐはん大坂にてなんきんうり又ぼうふら江戸にて先年はぼうふらといひ今はかぼちやと云

〔倭訓栞加後編五〕かぼちや 東埔寨と譯すもと暹邏の内今別國と成とも南天竺の内也とも眞臘國也ともいへりかすたとも云とぞ慶長の頃より通せしともいへり瓜の類にいふは此國より出たる種なるべしよて群芳譜に蠻南瓜と見えたり